

に、こども園で5月5日に数の子を配り、食べてもらっています。それで初めて食べた子がたくさんいるということでありますので、魚食の習慣の定着、消費拡大を考えていただければと思っております。以上です。

古村水産局長

堀委員どうもありがとうございます。漁業者自らの付加価値向上につきましては、それぞれ各地区で様々な取り組みが行われていると思いますし、引き続き、こういった取り組みを進め、所得の向上につなげていく必要があると考えております。

また、密漁対策につきましても、ナマコは依然として密漁が後を絶たない実態にあります。道では、海上保安部や警察と連携いたしまして、取締を強化しておりますし、漁業法も改正され、罰則も大幅に強化されておりますし、今年の12月からは、流通の関係でも規制が始まります。水産流通適正化法という法律が施行になりまして、当面はアワビとナマコにつきましては、漁獲されたものにきちんと番号を振り、トレーサビリティといいますか、追跡できるような仕組みもできますので、そのような制度を活用しながら、密漁の根絶に取り組む必要があるのかなと思います。

また様々な魚食の普及も含めまして、大切な視点だと思っておりますので、今後の推進計画の中に位置付けしながら、施策を進めていきたいと思っております。引き続き、ご助言よろしく願いいたします。

生田技監

その他どなたかご意見ご質問、小西委員どうぞご発言お願いします。

小西委員

資料3-3の4ページに当たると思いますが、ここで申し上げていいのかわからないのですが、マイワシ・ブリフェアの写真がございました。実際に、マイワシ・ブリフェアに参加した飲食店から聞こえてきた話なのですが、試作に使う魚が送られてきたが、冷凍で活きがかなり下がったものが送られてきたというような話を何件か聞きました。せっかくこういうチャンスに参加してくれる飲食店の気持ちを削ぐような品質のものが送られたということは、ちょっと残念だなと思いました。せっかくやるのであれば、しっかりと最後まで責任を持っていただきたいと思っております。魚に関しては、本当にいろんな面でファンづくりというのがとても大切だと思いますので、子供たちや浜の母さんなども大切だと思いますし、あと料理人を巻き込んだ取組もいろいろ考えられると思います。多方面からのファンづくりというのが、消費拡大に大きく繋がっていくと思いますので、よろしく願いいたします。

古村水産局長

小西委員どうもありがとうございます。マイワシ・ブリフェアの関係で、そのような飲食店からの反応があったということで、貴重なご意見として、今後の参考にさせていただきたいと思っております。また、様々な消費拡大に向けた取組を今年度につきましても展開していきたいと考えておりますので、助言よろしく願いいたします。

生田技監

続きましてどなたかご意見ご質問は。渡邊委員ご発言よろしくお願ひいたします。

渡邊委員

私が住んでいる地域は旭川で、内陸部ですので、ほとんど漁業フェアや漁協のお母さんたちと交流というのがほとんどないんです。そういうものがあれば、もっと内陸部でも消費拡大につなげていけるのではないかと思います。地理的に遠いということもあるのかもしれませんが、もっと積極的に内陸部でも、そういう働きかけをしていただければ、大変消費者として嬉しく思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

古村水産局長

渡邊委員ありがとうございます。おっしゃる通り、魚は沿岸の地方でしか食べられていないわけでありませし、北海道は非常に広いということもあります。今後、内陸部でそのような取り組みを検討させていただきたいと思ひますし、また旭川で企画するようなことがありましたら、ご協力をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

生田技監

続きまして尾崎委員、ご発言よろしくお願ひいたします。

尾崎委員

僕たち漁青連では、近いところでは2月15、6日あたりに札幌の小学校で、魚の獲り方や獲れた後どうなるなど出前授業のようなものをやらせてもらう予定です。できるだけ対面がいいと思ひながらも、この状況で中止になるかもしれないのですが、一応予定しております。オンラインでできるようになればとは思ひています。

あとは廃プラ、脱プラ問題も、僕らの会議ではお茶など出してもらえたりしますが、できるだけ僕ら漁青連ではペットボトルに入ったお茶ではなくて、紙パックに入ったお茶を探して使ってもらうなど、そういう心掛けをしています。

あと旭川の渡邊委員から出たお話ですけど、女性部さんと一緒に魚食普及で出前授業をやらせてもらったりもしているのも、もっとこれからも違う場所ですらそういう活動ができればと思ひていますので、何か助けになることがあれば、ぜひ協力したいと思ひています。よろしくお願ひします。以上です

古村水産局長

尾崎委員どうもありがとうございます。漁青連としても様々な取り組みをされていると思ひますし、引き続き、そういった出前授業も含めて、取組をぜひ進めていただきたいと思ひます。我々もできる場所があれば、協力しながら、一緒に取り組んでいきたいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

生田技監

続きまして、伊藤委員ご発言よろしくお願ひいたします。

伊藤委員

北海道機船連の伊藤です。よろしくお願ひします。資料3-4の件ですが、

人材の育成確保ということでございます。沖合も沿岸も今現在、10年先を見ましても、なかなか担い手が見当たらない状況の中で、外国人の入国制限がございますけれども、外国人船員を入れなければ、漁業が成り立っていない状況になってきていると思います。魅力ある漁業をということで、道にも一生懸命やっただいていただいているのですが、なかなか間に合わないような状況下、人手が足りないということでございますので、道としてもこのような取組の他に、外国人船員を入れることに関しまして、ご協力をお願いしたいなと思っております。以上です。

古村水産局長

伊藤委員どうもありがとうございます。乗組員が非常に不足しているというのは、各浜でもそれぞれ課題があるかと思えます。できれば外国人船員ではなくて新規就業者が来てくれれば一番いいということで、そういった対策は対策で進めながらも、外国人労働力に頼らざるを得ないところもございますので、国とも連携しながら、そういった対応も含めて、取組を進めていきたいと思えます。引き続きよろしく願いいたします。

生田技監

どなたかご発言ご意見ございますか。川崎会長ご発言ございますか。

川崎会長

時間が長くなりましたし、私の意見はまた今度とさせていただきます。

生田技監

わかりました。その他どなたかご意見ございますか。竹田委員ご発言ございますか。

竹田委員

札幌丸水の竹田です。先ほど赤潮のところで、我々の商売上、木村副会長にお伺いしたいなと思っておりますが、太平洋側を中心に赤潮が発生しております。全道でオホーツクや日本海などの、組合あるいは生産者の方々から不安の声が聞こえてきますので、木村副会長個人的なご意見で構いませんので、太平洋側だけでなく他にも赤潮が来る可能性があるか、お聞きしたいなと思っておりますので、よろしく願います。

木村副会長

今回だけのデータでははっきりとしたことは申せない、今後もきちんと調べてみなければわからないところでございます。一説には、ロシア由来の赤潮であるということも言われておりますので、その海流の流れ次第ではまだわからないが可能性としてはないことはないと思えます。もちろん、道でも道総研でもそこら辺はやられていると思えますので、もう少しお時間をいただき、きちんと調べさせた上で、回答させていただきたいなと思えます。

竹田委員

はい、ありがとうございます。

生田技監

では続きましてどなたか、糠塚委員何かご発言ございますか。

糠塚委員	<p>糠塚です。今、我々加工屋レベルの話で言うと、研修生がもう2年半くらい入って来ていないので非常に困っている。壊滅的な状況なので、早く研修生の受け入れをしてもらいたいなと思っております。</p>
古村水産局長	<p>糠塚委員どうもありがとうございます。外国人研修生は先ほども出ましたけれども、特に加工関係に関しては、非常に大きな問題だと思っておりますので、国とも連携しながら、こういった対応が考えられるのかも含めまして、引き続き、検討していく必要があると思っております。</p>
生田技監	<p>ありがとうございました。他に何かございますか。ないようでしたら、次の議題に移らせていただきたいと思います。</p> <p>次に、報告事項といたしまして、国の次期水産基本計画について、担当の方から説明をさせていただきます。</p>
千代谷課長補佐 (水産企画係)	<p>(「国の次期水産基本計画について」資料4-1、2に基づき説明。)</p>
生田技監	<p>ただ今の報告事項、国の次期水産基本計画について、委員の皆様から何かご意見ご質問等ございますでしょうか。特段ご意見ご質問なければ、本報告につきましては、ここまでにしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日の議題につきましては終了しましたけれども、委員の皆様方から、何か特段ございますでしょうか。</p> <p>なければこれで本日の審議会の議事を終了いたしたいと思っております。どうもありがとうございました。</p>
山口企画調整担当 課長	<p>これで、本日の議事を終了いたしました。閉会にあたりまして、水産林務部長の佐藤から一言ご挨拶申し上げます。</p>
佐藤水産務部長	<p>長時間にわたりまして、大変熱心なご審議をいただきまして、本当にありがとうございます。主な議題として、赤潮と次の水産業・漁村振興推進計画について、いろいろご意見を賜りましたけれども、まずは赤潮については、これから被害が明らかになるツブなどの対策も含めて、当然単年度の取り組みでは終わらないということでございます。複数年に渡る支援をしっかりとやっていくことが、ロードマップというご意見もいただきましたけれども、まずは計画的に今年度措置された国の予算を、着実に執行するということが非常に大切かなと思っております。いろいろご意見を賜りながら、有効に国の事業を活用して、少しでも早く漁業生産の回復と漁業者の経営の安定化を図っていきたいと考えております。</p> <p>水産業・漁村振興推進計画は本当に多方面から色々な意見がございました。ゼロカーボンや担い手対策、あとは水産物の消費拡大、本当に重要な課題について、ご意見をいただいたところでございますけれども、1年間かけて計画を</p>


練り上げていくという中で、ただいま委員の皆様からいただいたご意見をどのように計画に反映させるかということも含めて、しっかり検討を進めていきたいと思っております。いずれにしても川崎会長、木村副会長を始め、委員の皆様には本道水産業・漁村の振興のために引き続き、ご意見ご指導よろしく願い申し上げます。閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

山口企画調整担当
課長

それではこれもちまして、第10期第1回の北海道水産業・漁村振興審議会を終了いたします。次回の審議会は、6月下旬から7月中旬の開催を予定しております。後日担当より、日程調整のご連絡をいたしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日は長時間に渡りましてありがとうございました。

以上、議事の経過及びその結果を記載し、議事録署名委員2名により署名する。

第10期北海道水産業・漁村振興審議会

令和  2月10日

議事録署名委員

伊藤 保夫

令和 4年 2月18日

議事録署名委員

坪江 利香